

献呈の辞

笠原伸一郎先生のご退職に寄せて

専修大学経営学部での経営学の研究・教育に、29年間の長きにわたってご尽力いただいた笠原伸一郎先生が、2021年（令和3年）3月末日をもって定年でご退職されることになりました。約束ごととはいえ、笠原先生が本学の教壇を離れることは、非常にさびしいものがあります。特に、経営学部は、昨年度より二学科制に移行し、その中では、笠原先生がこれまで積み上げてこられた国際経営の知識・経験が看板になると考えられることから残念でなりません。ここに、笠原先生のご略歴やご足跡、そして本学や社会への貢献を紹介し、衷心より感謝の意と惜別の念を表したいと思います。

笠原先生は、1950年6月にお生まれになり、1976年3月に横浜国立大学経営学部をご卒業なさいました。ご卒業後、横浜国立大学大学院経営学研究科修士課程に進学し、さらには慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程へと進まれ、1984年3月に単位取得退学されました。また、1992年4月より経営学部助教授として入職され、1996年4月には教授に昇格されました。この間、白鷗女子短期大学、十文字女子短期大学、白鷗大学などで非常勤講師や専任講師、助教授を歴任されていらっしゃいます。

教育面では、笠原先生は、国際経営論や、経営学総論、ゼミナール、などの専門科目に加えて、大学院の科目を担当されていらっしゃいました。笠原ゼミは経営学部の看板ゼミで、学内外、国内外で活発に活動し、ゼミ生の育成に多大な貢献があり、着任以来、有望な学生を多数社会に送り出してきました。

学内行政においても、笠原先生は多大なる功績を残していらっしゃいます。経営研究所長2年をはじめ、国際交流委員会運営委員2年、国際交流委員会委員2年、学生部次長1年、学生部委員5年、教員資格審査委員会委員3年、自己点検・評価運営委員会委員2年、自己点検評価委員会委員2年、など数々の委員を歴任されております。

一方、研究成果について言うと、笠原伸一郎教授の主な研究テーマは、米国企業の経営史と航空ビジネスの国際化であり、数々の研究成果は学界で高く評価されており、これまで、書籍や論文等33件執筆されるなど、数多くの業績を上げておられます。また、組織学会、多国籍企業学会（多国籍企業研究会）、経営史学会、AIB（Academy of International Business）、日本観光学会、日本ホスピタリティ・マネジメント学会、国際ビジネス研究学会、日本マネジメント学会（経営教育学会）、ビューティビジネス学会等、多くの学会で精力的に活動し、なかでも国際ビジネス研究学会では長く役員を務められ、現在も監事として活躍されています。以上、笠原先生のご活躍の一端を紹介させていただきます。

また、専修大学経営学部において31年間の長きにわたって日本語の研究・教育にご尽力された川崎誠先生も、2021年（令和3年）3月末日をもって定年でご退職されます。川崎誠先生は、長年にわたり留学生向けの日本語教育を担当されてきました。学内行政では、教員資格審査委員会の委員を務められ、学外においては、日本語学会、日本ヘーゲル学会に所属し、80件を超える書籍や論文等を執筆し学会に貢献されてきました。

このように笠原先生、川崎先生の教育、学内行政、そして研究におけるご功績は大変顕著なものがあり、このようなご功績に対して、専修大学経営学部は、2020年11月24日の教授会において、満場一致で笠原先生、川崎先生を専修大学名誉教授に推薦させていただきました。

笠原先生および川崎先生のご退職後のご健勝とご活躍を祈念するとともに、名誉教授として本学および本学経営学部にさらなるご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、これまでのお礼とお別れのことばとさせていただきます。

令和3年3月

専修大学経営学部長 関根 純